

グループホームぽっぽ大手町

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を「人を大切につながり大切に」として事業所全体の理念ぽっぽ5ヶ条を毎日の朝礼時に唱和し認識している	グループホームの理念は、茨木市全域で福祉の活動をしている法人の理念を、より具体的に5ヶ条に纏められたものであり、日々の職員の支援活動の指針とされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設が自治会に加入し、回覧板で地域行事の案内を頂くとなるべく参加させて頂くようにしている	現在はコロナ渦の最中にあり、感染防止対策として地域交流は制限されている。地域状況は常に回覧板で把握されており関心は持ち続けられたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域住民に施設での介護内容を説明し認知症を理解して頂く機会を設ける		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度の運営推進会議で、各施設の現状を報告し、意見を頂き、改善している	コロナ渦の影響を受けて中止も余儀なくされた事もあるが、従来の参加者と共に質疑応答もあつたりしてこの事態の対応策を話し合われている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	市の窓口相談し助言をいただいている。地域相談員も月に1度来訪して頂き、連携を図る。	事業内の活動にとって必要な手続き上の問題点を聞きに行ったり、市との関係者との接点も大切にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたるチェックシートを活用しながら、理解するよう心がけている。安易に臥床時に2点柵をしないなど事故がおこらないようその他の方法がないかを考えていく。	身体拘束排除マニュアルは策定されており遵守されている。虐待防止の研修も勉強会もしっかりと実施される。利用者の自由行動と安全確保についての模索は常に皆で考えるようにしている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などで学び、もちかえり管理者と職員が話し合いの機会を設け、職員全体への伝達をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できるようにしていく。定期的に研修を実施し、内容を職員全体で共有できるようにしていく。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学からお試し利用迄、入居者、家族への説明を介護支援専門員と共に行いながら、納得していただいたうえで、契約していただいている。(現在コロナ感染予防の為にリモート等により見学)</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの要望は聞くようにしている。相談など話しやすい環境作りを心がけている。</p>	<p>原則的に来訪時に話されている。代表者は推進会議で話されている。その際には職員はよく受け応えされている。現在はコロナ禍の為、訪問も少ない状態といえる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者はリーダー職員と報告を密にし職員の意見を取り入れ実践・結果を明確にし改善している。</p>	<p>職員会議は月一回開催され要望意見が提起されている。この機会に推進会議の決定事項も周知されるようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>社内で評価制度を設け面談を行い把握に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、内部研修には積極的に参加を促し、朝の朝礼時に報告、共有に努めている。資料を使用し、伝達している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域主催の研修会にも積極的に参加している。(現在はコロナ感染予防の為に保留中である)</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と1対1で話をする時間をとり、十分に話を聞くようにしている。いつでも電話対応など可能であるということも説明し、安心していただいている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の家族とも連絡を密にし一緒に考えていき、対応をしている。入居者、家族の要望にいつでも添えるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と一緒に考え、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分でしてもらい、家庭的な雰囲気の中で、職員と一緒に洗濯物を畳んでもらったり、家事炊事の手伝いもしてもらっている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン修正時に近況報告を行い、暮らしや気づきの情報等、家族様と一緒に考え支えていく関係作りに努めている。 (現在面会は窓越し対応となっている)	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人様が訪問されたり、一緒に出掛けられたりと協力しながら支援を行っている。本人様の大切にしてきた習慣を大切にしている。(現在窓越しの面会のみとなっている)	知り合いの方の訪問があれば受け入れられている。家族の協力が有れば馴染みの所に出かけられるように図られている。現在はコロナ渦の為、家族との面談は間接的にならざるを得ない状態である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置関係等も考えて生活してもらっている。調子の悪い入居者に対して他の入居者が声をかけたり、お互い助け合いをしながら生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	節目で様子を伺い、相談などしやすいように心が下している。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を確認し、個別ケアを取り入れている。日々の中で、自然に出る思いやりの心を大切にしている。	問題点があれば職員どうして共有する事の大切さ認識されている。基本的には提出されている生活歴を活用して、判断に間違いのないようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの環境背景については、家族様との情報交換を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り本人様の意向に沿った過ごし方を尊重している。日々の関わりや、24時間の記録にて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様からの意見や職員からの意見など担当者会議を行い、暮らしに合った本人様本位の計画を作成するように努めている。	ケアマネを中心として家族、管理者、職員、などで基本的な介護計画が策定される。基本的には一年から半年間の期間に再度、見直しはされるが必要に応じて現状に即応した介助がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の介護実践記録を記入し、改善があれば、介護計画変更に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況や精神状況の程度に合わせて介助など考えている。必要であれば、家族との外出の見守りなども考える。(現在はコロナ感染予防の為外出は保留中である)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや楽しみながら生活できる様支援を心掛けている。(現在はコロナ感染予防の為外出は保留中である)		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、事業所に往診に来てもらっている。電話連絡にて相談、報告をしたり、必要時には臨時に往診に来てもらったり、受診をしている。	従来からのかかりつけ医を希望されている方にはその医院の診察が認められている。事業所としてもその医院との密接な連携を行いながら利用者の情報の共有を図るよう努めている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>施設内に看護師を配置しており、定期的に利用者様の状態把握や体調管理を行っている。日常的には協力機関に連絡を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>診療情報や看護・介護サマリーのやり取りや、入院先での説明・情報提供により、地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーとの連携を行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化による指針を作成し同意して頂いている。終末期については、ご家族様・医師等を交え話し合いを行い対応方針を統一し、困難なケアやサービスの希望する場合は医療機関との調整を行っている。</p>	<p>入所時に全般的な説明はされているが、重度化に向かいはじめた頃から、医師の判断で延命治療入院か看取りの介助支援かの判断がなされる。家族の意向は十分に汲み取るように考慮されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故に備えては、連絡の手順を明らかにし、管理者は看護師と連携し、協力医療機関への連絡を行い、対応している。職員にも市開催の救命講習に参加の呼びかけを行い、受講してもらっている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署と連携して消防訓練を実施している。また近隣の消防団方に訓練への参加の声かけを行い、非常時の協力体制の確保に努めています。</p>	<p>年2回の避難訓練が実施されている。特に地元の消防団にも声掛けされており消防署との連携もされている。IH器具を利用されており、出火のリスクは小さくなっている。</p>	<p>目標達成計画書では夜間の避難訓練も想定されていたがコロナ禍の為、難しかったようである。引き続き予定されるよう要望するものである。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して、個々の情報を把握し、今まで生きてこられた歴史を尊重し個々に合った声かけを行うことに努めている。	職員の言葉使いは適切なものであり互いに良い影響を与えており、相乗効果も生み出させている。また、職員の研修も定期的に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に対して、固定観念でとらえない様に心がけ、傾聴を行い、その人らしさが出せる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の意志を尊重し、その方のペース・希望に合わせた支援を行い、その人らしい生活が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、本人様に好きな物を選択して頂き、季節に合わせて家族様にも協力して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を考え、その方にあった内容を看護師と職員が相談し連携しながら介助提供している。ご家族様にも形態が変更の際は報告し共有している。	食材は専門業者から納入され事業所の厨房で調理されている。その為利用者にとっては美味しい食事となっているようである。食事の仕方もある方にあつた適切な方法を考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し観察を行っている。看護師や職員全員で支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守り援助し、毎食後声かけを行い、その方に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全職員で自立に向けた支援を行っている。その方に合わせた促しや、訴えがない方でもトイレで排泄出来る様、様子観察を行っている。	時間単位で記録された排泄一覧表に従って規則性のあるトイレ誘導をしている。脚力を維持する無理のない訓練や、いばらき体操（音楽、映像）をして自立排泄への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況と水分摂取量を記入して観察を行い、水分補給の促し、適度な運動を心がけている。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくりと入浴できるように時間をとっている。曜日は決めているが、希望があれば入浴して頂いている。	週二回の入浴を実施されている。湯の総入れ替え、洗髪、肌着もその都度交換されている。健康や清潔さの維持は確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて休息や安眠ができるよう支援し、安心できる場所であると思っけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、申し送りやミーティングの際に、注意すべき内容の周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりあい各個人の楽しみを見つけ、楽しんでもらったり出来ることは手伝ってもらい、感謝を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の健康状態や気分に合わせて、周辺の散歩など外出している。気軽に出かけられる様希望に沿った支援に努めている。	コロナ渦の状況では外出支援は感染リスクを伴うため今は出来ていない。家族も了承されている。コロナ渦の終焉時には近辺の散歩も再開の予定とされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金を使う事はほとんどなく、現在はコロナ感染予防の為外出は保留中であり、ご家族の対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話したい場合は、希望の要件を伺い職員が電話をして本人様に話してもらっている。手紙等などは、届いた場合は本人様に直接お渡しし、返信あれば支援を行う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体をバリアフリーにしている。温度調整は外気を取り入れたり、空調を利用したりしている。	リビング、居室、廊下、フロ、トイレなど利用しやすい位置関係にあり家庭的な雰囲気がある。空調設備のお陰で凌ぎやすく利用者にとっては疎外感を感じさせない人的な温かさを受けられているようである。	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂では一人ひとりの状態を把握しながらゆったり過ごしていただき、コミュニケーションも取ってもらえるような環境づくりをしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使用していた使い慣れた物や、本人の思い出のあるものなどを持ってきてもらっている。</p>	<p>自分だけの生活空間を作られており利用者には自分の家そのものといえよう。掃除も行き届いており綺麗な環境での生活をされている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各利用者様の残存機能や能力に応じて、トイレや食堂に近い居室にする等、配慮をおこない、積極的にできる事を支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	①	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目：9, 10, 19)	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	②	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)</p>	②	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	②	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	②	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>